

◆「住総研 清水康雄賞」

創立60年を機に平成20年（2008年）に創設された顕彰制度である。対象者は、住総研の目的「住まいに関する総合的研究・実践並びに人材育成を推進し、その成果を広く社会に還元し、もって住生活の向上に資すること」に適った優れた研究成果をあげるとともに、新たな時代につながる、或いは新分野を切り開くことが期待できる実践的活動を行ない、かつ今後も活躍が期待される研究者とする。概ね3年毎に1名を選考し、清水康雄賞として正賞、副賞（200万円）を授与し表彰する。



清水康雄賞 正賞

◆清水康雄と一般財団法人 住総研

創立者 清水康雄

1901（明治34）年 清水釘吉の三男として出生

1923（大正12）年 早稲田大学専門部政治経済学科卒業

1929（昭和4）年 清水宗家を相続（五代当主）、合資会社清水組有限責任社員に就任

1940（昭和15）年 株式会社清水組社長に就任

1948（昭和23）年 株式会社清水組を清水建設株式会社に改名
財団法人新住宅普及会（現：一般財団法人 住総研）理事長に就任

1949（昭和24）年 日本経営者団体連合会常任理事に就任

1950（昭和25）年 経済団体連合会常任理事に就任

1954（昭和29）年 東京建設業協会会長に就任、全国建設業協会会長に就任

1956（昭和31）年 藍綬褒章を受章

1961（昭和36）年 フランス共和国大統領よりエトワール・ノワール・コマンドール勲章を受章

1962（昭和37）年 建築業協会理事長に就任

1966（昭和41）年 死去。従四位勲三等 旭日中授章を受章



新住宅普及会 設立趣意書

現下の住宅問題は先ず絶対量の不足をいかに充足するかという面といかに恒久性をもたすかという面とにあり、前者を量の問題とすれば後者は質の問題ともいえると思います。終戦後歴大な住宅不足に対応するため後者を顧みる暇もなく前者に重点がおかれていたが火災焼失の面よりしても前者のみに依存しては結局その大量生産の目的をも果たし得ないことが統計上明らかにされ、最近後者が注目されて来たことは当然のことと思います。結論としては恒久性のある住宅の大量生産に向かうべきであるが、我が国に於ける特殊の事情よりして直ちに欧米に於ける理想的な建築形式そのままを採用することのできないことは論をまたないところあり、いかなる形態の建築が、経済の面より、資材の面より等々、施工生産の面より等々、適当であるか、研究すべき部門が幾多残されております。本財団はこれら部門の諸問題を研究し、その成果を実践に移し以て窮迫せる住宅問題の解決に資せんとするものであります。

1948年10月1日 財団法人 新住宅普及会

設立委員長 清水 康雄

そして、その寄附行為には、「住宅建設ノ総合的研究及其成果ノ実践ニ依リ窮迫セル現下ノ住宅問題ノ解決ニ資スルヲ以テ目的トス」と謳い、そのために「一、住宅建設ノ総合的研究、二、前号成果ノ実践普及」の事業を行う、と明記した。

また、財団の名称には独立性を掲げて企業名や個人名を冠せず、目的を端的に表現した「新住宅普及会」と決定した。事業として、不燃住宅を研究・実践し、庶民でも手が届く「新住宅」を量産・普及して現下の住宅不足に資せんとしていた点からは、時代背景と「つくり手」の使命感が強く感じられる。

（住総研60年史：財団法人住宅総合研究財団平成20年（2008年）11月発行より抜粋）